

万葉集の学習指導

——生徒の実態に即した古典教育をめざして——

米 山 誠

〔内 容〕

- 1 まえがき ——古典教育の問題点——
- 2 古典に対する生徒の意識の実態
 - 1 高校生の場合
 - 2 中学生の場合
- 3 万葉集の学習指導
 - 1 指導のねらい
 - 2 教科書における万葉集教材の実態
 - (1) 高校古典の場合
 - (2) 中学国語の場合
 - 3 高校における万葉集の学習指導
 - (1) レポートの課題とその結果
 - (2) 授業の実際
 - (3) 大和方面研究旅行
 - (4) 愛知県関係の歌の紹介
 - (5) 万葉集学習に対する生徒の感想・意見
 - 4 中学における万葉集の学習指導
 - (1) 万葉集に関する知識の予備調査
 - (2) 授業の実際
 - (3) 万葉集学習に対する生徒の感想・意見
- 4 あとがき ——まとめと反省——

1. まえがき ——古典教育の問題点——

古典を指導するうえで最も大切なことは、具体的に作品の内容にふれて感動するという体験を生徒たちに持たせることである。抽象的概念的に作品をわからせることではない。具体的に作品に感動し興味や愛着を持つことなしに「文化の享受や創造に資するために、古典に親しむ態度を養う」または「思考力・批判力を伸ばし心情を豊かにする」という指導要領の目標が達せられるはずがないし、民族の文化遺産を継承発展させることもできるはずがないと思う。

ところで、私達の古典教育の現実をはたしてどうであろうか。古典学習の目標に至るための手段ともいえるべき文法指導読解指導に追われながら、作品の部分部分の羅列に過ぎないような教科書教材を通して古典の上っ面をかじっていくような状況に陥ってしまっていることが多い。読解力を養わなければ古典の意義も理解もはじまらないということで、文法や解釈の指導に

終始すればするほど古典を敬遠し、古典は何のためにやるのかという疑問を持つ生徒が多くなる。実際に古典を学ぶ意義がわからないという生徒は高校でも中学でも意外に多いのである。なぜそうなっていくのかという原因を考えると、大学入試問題のこともあるし、私達教師の自覚や教え方の問題もあるが、教材のあり方に一つの大きな問題があると思われる。まず、生徒達の心にふれて感動を与えるような教材をゆたかに準備することからはじめなくてはならない。そしてそのような教材の真髓にふれるような指導方法を考えなくてはならない。具体的にいえば、過去の時代社会や人間とくに民衆の生活感情、思想などがいきいきと伝わってくるような作品を選び、じっくり時間をかけてその作品を生んだ歴史や社会の背景までふくめて深く理解させてゆく指導を考える必要があると思う。そうすれば古文の読解や文法の学習にも意義や興味を感じるようになるのではないだろうか。こう述べてみたところで現実にはなかなか困難なことであるが、とにかく古典教育を本来の学校教育や国語教育の中に正しく位置づけて常に正しいあり方を探る努力をしていく必要があることは事実である。

以上のような反省の上に立って、万葉集という第一級の民族的な古典をとりあげ、あれこれと迷いながら、できる限り生徒の実態に即した指導をしてみようと心がけてみた。以下は本校の高校と中学とにおいて試みた私の拙ない実践の記録である。

2. 古典に対する生徒の意識の実態

1. 高校生の場合

次の調査は、昭和44年4月、本校の高校2年生を対象として最初の古典乙1の時間に行なったもので、アンケートによってまとめてみたものである。調査対象生徒数は計88名である。

5項目の質問と、それに対する生徒の答えの主なものを傾向別に記していくことにする。

(1) 「古典をなぜ学ぶのか」——

- ① 「昔の人の生活や感情思想を知り、それによって現在の自分のものの考え方を深める」「民族の文化遺産をうけつぐ」「日本人固有のものの感じ方考え方を知る」等と答えた者が、全体

の約半数。

- ② 「意義らしい意義がわからない」「科目にあるから」「文部省が決めたから」等。
- ③ 「古典読解の力を養う」「読書の範囲を古典にも広げたい」「日本語の変遷を知る」等。
- ④ 「社会人としての一般教養のため」等。
- ⑤ その他
- (2) 「古典に興味を感ずるか」——
- ア. 興味を感ずる 19名 (21.5%)
- イ. 興味を感じない 19名 (21.5%)
- ウ. どちらともいえない 50名 (57%)
- アの理由
- ① 「昔の物語がおもしろい」「古い時代の生活状況や思想がわかっておもしろい」「歴史を学ぶ資料として参考になる」等。
- ② 「文語文の表現が今とちがって味がある」「昔の日本語の姿がわかる」等。
- イの理由
- ① 「解釈がうまくできない」「文法がわずらわしい」「かなづかいや文体がややこしい」等。
- ② 「内容がおもしろくない」「昔の人の考え方はじれったくていやになる」「古典の必要性が認められない」等。
- ウの理由
- ① 「内容に対する興味はあるが解釈や文法がむずかしくていやになる。」「主題や要旨がとらえにくい」「文法はきらいだが、昔の人たちの生活がわかっておもしろいこともある」等。
- ② 「作者や歴史的背景を調べることがおっくうだ」「時間ばかりかかって効果があがらない」等。
- ③ 「古典の必要性が明確でない」「何の役にも立たない気がする」等。
- (3) 「古典の授業に何を望むか」——
- ① 教科書以外のおもしろい教材を使ってほしい」「文法の説明、ことばの解釈、作者の説明等の決まりきったことだけでなく、その文章に関するエピソードを話したり、先生の考えなどを多く述べてほしい」「思想性のある文章を教材にしてほしい」「時代社会の風習など作品の背景にふれてほしい」「人物の性格分析をしてほしい」「興味のもてる古典の作品や参考書などを紹介してほしい」等。
- ② 「先生が一方的にやっついていかないように、くわしく、ゆっくりとやってほしい」「興味のもてるような楽しい授業を望む」等。
- ③ 「文法の基礎をしっかりやってほしい」
- ④ 「討論形式の授業を」「グループ学習がしたい」「長期の課題を与えて生徒に研究させ、そ

れについて討論させるとよい」等。

- ⑤ 「教科書を最後までやってほしい」「古文は何のために学ぶのかわかるように教えてほしい」「受験勉強のためになるような指導を」等。
- (4) 「古文の学習上最も苦手なことは何か」——
- ① 「文語文法」(とくに動詞, 助動詞の活用や助詞) 45名
- ② 「文脈(主述, 修飾被修飾の関係など)や全体の意味をとらえること。」等。 26名
- ③ その他
- (5) 「高一の終わりまでに習った古典の中で最も興味を感じた作品は何か。」——
- ① 徒然草(「堀池の僧正」「高名の木のほり」「足がなえ」等) 43名
- ② 平家物語(「橋合戦」「敦盛」「祇園精舎」等) 23名
- ③ 特になし 14名
- ④ その他(竹取物語, 宇治拾遺物語, 奥の細道等) 8名

以上の調査の結果から、大体の傾向として次のようなことが言えると思う。大半のものが、古典学習の意義を理念的には理解しており、また古典から何かを学びとりたいという気持もあるのだが、現実には文語文のむずかしさが障害になって、そのために、本来の古典学習以前の段階で苦しんだり、興味を失なったりしているのが実態であるということ、また文語文の障害はあっても、教材そのものが興味深く、また教え方がていねいでわかりやすければ、その障害に耐え克服していくこともできるわけだから、ほとんどの生徒がそのことを切実に求めているということなどである。したがって、こうした生徒の実態を認識し、それに即応した教材選択と指導方法を考え実行しなければ古典はますます本来の目標から遠ざかってしまうであろう。「古典学習の意義がわからない」「古典の必要性が認められない」と正直に答えている生徒達の数が意外に多いことを率直に認めてまず、古典の価値を実感させる指導を考えてゆかなければならない。

2. 中学生の場合

次の調査は本校中学3年生84名を対象として、昭和44年12月、教科書の「古典」の単元に入るに先立ってアンケートにより調査をまとめたものである。調査の項目は高校の場合の調査項目(1)(2)(3)と同じである。

(1) 「古典をなぜ学ぶのか」——

- ① 「過去の時代の生活・習慣・風俗・思想などを知る」「古人, 祖先の思想・感情を知る」「日本民族の歴史と伝統をうけつぎ伝えて行く」等 63名
- ② 「日本語の変遷, 発達の仕方を知る」「古文

- を読む力をつける」 18名
- ③ 「わからない」 7名
- (2) 「古典に興味を感じるか」——
- ア. 興味を感じず 17名 (20%)
- イ. 興味を感じない 34名 (40%)
- ウ. どちらともいえない 33名 (40%)
- アの理由
- ① 「昔のことや日本独特のことがわかる」 6名
- ② 「現代文とちがう語感・リズムがおもしろい」 4名
- ③ 「物語が原文で読める」 4名
- イの理由
- ① 「ことばの意味や内容がわからない」「かなづかいがややくしい」「訳すのがめんどくさい」 22名
- ② 「学習の目的がわからない」「役に立たない」 6名
- ウの理由
- ① 「わかればおもしろいが、わからないときはつまらない」「よくわからないが内容的におもしろそうだ」 11名
- ② 「現代生活に関係がない」「何のためにやるのかわからない」「むつかしくて親しめない」 8名
- (3) 「授業に何を望むか」——
- ① 「ことばの意味、古文の文法の基本などをわかりやすく教えてほしい」「古文の読み方、発音、区切り方を教えてほしい」「先生が最初に読んでその後みんなについて読むようにしてほしい」等 21名
- ② 「適当な参考書を使って基本からだんだんわかるように教えてほしい」「わかりやすくゆっくりことばの説明、鑑賞の要点などを説明してほしい」「楽しい話、身近かな話をプリントにして教えてほしい」等 17名
- ③ 「数多くの作品に少しずつふれるのではなく、よりすぐった作品についてじっくり時間をかけて鑑賞したい」「教科書の古文をやったら、それに関連のあるものをプリントなどで補いながら鑑賞を深めるようにしてほしい」「古典の作品の時代や社会のようすをくわしく話してほしい」 11名
- ④ 「なぜ古典をやらなければならないのかということについて話してほしい」 8名
- ⑤ グループ学習でみんなの感想・意見を話したい」 7名
- 以上の中学生の古典に対する考え方をみて、次のようなことを感ずる。高校生の場合と比べてみると考え

が純粋な形で表現されているという違いはあるが、大きな傾向はそんなに違っていないと思う。古典の世界への知的好奇心が旺盛であると同時に、古文はむずかしいものだという不安が大きい。高校生とのちがいといえば、高校生は古文の読解や文法の学習を経る中で古文のことばの壁につき当たり、古典学習への意欲を見失ったりしている場合が多いが、中学生の場合は、古文はむずかしいという感じは強く持っているが、一方これから勉強しさえすれば理解できておもしろくなるだろうという期待も持っているように感じられる。「古典学習の意義がわからない」と答えていても、高校生がそう答えているのとは意識は違うと考えられる。大切なことは、みずみずしい興味を抱いて古典に向かおうとしている中学生の意識を尊重し、そのような意識に十分応えうるような魅力にあふれた教材を与え、民族の古典に対する愛情を育てていかれるような指導を工夫しなければならないということである。中学の段階では古典の内容に対してもことばに対しても古典のおもしろさを実感させ、発見させる興味を持たせることがすべてであるといっても言い過ぎではないと思う。

3. 万葉集の学習指導

1. 指導のねらい

高校2年生の古典乙1古文で万葉集を重点的に扱った理由は、教科書に教材が載っていたということもあるが、同じ扱うのなら、魅力のある教材を豊かに用意して、しかも時間をたっぷりかけて、生徒たちが万葉集のおもしろさがわかったというまでやってみたいと考えたからである。そして万葉集は、古典の中でも最も素朴に古代の人間、とくに私達の祖先である民衆の息吹にふれ、さらに、民族の伝統を身近に感じうる作品として古典教材にふさわしいと信ずるからである。次に、高校2年生の学校行事として、秋には大和方面研究旅行が予定されていたので、その行事と結びつけ万葉の諸作品の故郷としての大和の地を実際に歩き、古代の史跡や美術にも接する機会を古典学習のためにも最大限に活用したいと考えた。旅行によって万葉集の学習を充実させ、万葉集の学習によって旅行を充実させることができればそれにこしたことはないと思ったのである。

中学3年生に対する万葉集の指導は、中3の国語教材として万葉集が載っていたことから、高校での指導の経験を活かして、中学段階においてできる限りわかりやすく興味深い歌を教材として数多く準備し、それを通して古典のおもしろさを実感させてみたいと思って試みた。それがやがて高校生になってから古典を学ぶための基礎になるだろうとも考えた。

2. 教科書における万葉集教材の実態

(1) 高校「古典甲」の場合

「古典甲」の教科書を調査の対象としたのは、古典の基本指導のための教科書としての万葉集教材化の一般的な傾向を知りうると思ったからである。調査としては、昭和44年度現行の教科書13種に当たって、それぞれの教科書に採られている歌の数と内容を調べた上、全体としての傾向を探ってみた。

(A) 各教科書に採られている歌数。()内は歌数。

- ①教図研(38) ②大日本改訂(32) ③筑摩(26)
④中央図(24) ⑤実教(20) ⑥大原(20) ⑦秀英(17)
⑧三省堂(17) ⑨尚学(17) ⑩好学改訂(13)
⑪明治(12) ⑫角川改訂(10) ⑬書院改訂(10)

以上13種の教科書に採られた万葉集の歌数は延べにして250首で、平均は19.2首である。歌の実数は99首であるが、それらの傾向を、作者別、歌別に示してみると次のようになる。

(B) 採用された歌の延べ数の多かった作者。

()内は歌の数

- ①人 麿(13首) 36 ④憶 良(6首) 20
②赤 人(8首) 32 ⑦旅 人(9首) 16
③家 持(6首) 25 ⑧額田王(3首) 13
④東 歌(7首) 23 以下略
⑤防人歌(13首) 22

(C) 5種以上の教科書に採用された歌21首。

()内はその歌を載せている教科書の数。

- ① 多麻川にさらす手作りさらさらに何ぞこの
児のここだ愛しき 東 歌 (9)
② 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひ
ぬ今はこぎ出でな 額田王 (8)
③ わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけき
この夕かも 家 持 (7)
③ 田児の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ不尽
の高嶺に雪はふりける 赤 人 (7)
③ 信濃路は今の壑道刈株に足踏ましなむ履は
けわが夫 東 歌 (7)
⑦ 憶良らは今はまからむ子泣くらむそれぞれの
母も吾を待つらむぞ 憶 良 (6)
⑦ 春の野に霞たなびきうら悲しこの夕かげに
うぐひす鳴くも 家 持 (6)
⑦ 天地の分かれし時ゆ……(長歌「不尽の
山を望める歌」) 赤 人 (6)
⑦ ぬば玉の夜のふけゆけば久木生ふる清き河
原に千鳥しば鳴く 赤 人 (6)
⑦ 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣乾したり
天の香具山 持統天皇 (6)

- ⑬ 淡海の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのにい
にしへおもほゆ 人 麿 (5)
⑬ 験なきものを思はずは一杯の濁れる酒を飲
むべくあるらし 旅 人 (5)
⑬ 父母が頭かきなで幸くあれて言ひし言葉せ
忘れかねつる 防 人 (5)
⑬ 和歌の浦に潮満ち来らし濁を無み芦辺をさ
して鶴鳴き渡る 赤 人 (5)
⑬ 石見のや高角山の木の間よりわが振る袖を
妹見つらむか 人 麿 (5)
⑬ 小竹の葉はみ山もさやにさやげども吾は妹
思ふ別れ来ぬれば 人 麿 (5)
⑬ 石ばしる垂水の上のさ蕨の萌え出づる春に
なりにけるかも 志貴皇子 (5)
⑬ 銀も金も玉も何せむに勝れる宝子にしかめ
やも 憶 良 (5)

(2) 「中学国語」の場合

調査の対象とした教科書は昭和44年度現行の「中学国語三」7種である。なお、「中学国語」においては一・二年用で万葉集を扱っているものは見当たらなかった。7種の教科書に採られている歌数と内容の傾向は次のとおりである。

(A) 各教科に採られている歌数

- ①教出(12) ②三省堂(10) ②東書(10)
④光村(7) ④日書(7) ④筑摩(7)
⑦学図(5)

以上の歌の延べ数は58首で、平均8首である。歌の数は30首である。

(B) 採用された歌の延べ数の多かった歌人

- ①人 麿(4首) 10 ④憶 良(4首) 6
②赤 人(4首) 9 ⑤防人歌(4首) 4
③家 持(4首) 8 ⑥東 歌(1首) 4

(C) 3種以上の教科書に採用された歌9種。

- ① 東の野にかざろひの立つ見えてかへり見す
れば月かたぶきぬ 人 麿 (4)
① 田児の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ不尽
の高嶺に雪はふりける 赤 人 (4)
① 信濃路は今の壑道刈株に足踏ましなむ履は
けわが夫 東 歌 (4)
① わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけき
この夕かも 家 持 (4)
⑥ わたつみの豊旗雲に入日さしこよひの月夜
まさやかにこそ 天智天皇 (4)
⑤ 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣乾したり
天の香具山 持統天皇 (3)
⑥ 銀も金も玉も何せむに勝れる宝子にしかめ
やも 憶 良 (3)
⑤ 和歌の浦に潮満ち来れば濁を無み芦辺をさ
して鶴鳴き渡る 赤 人 (3)

- ⑥ 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひ
ぬ今はこぎ出でな 額田王 (3)

以上、高校および中学の教科書を通じて万葉集の教材化の状況を簡単に記したが、ここから感じられることは、まず第1に、高校・中学ともに採用の歌数が少ないということ、第2に、歌の傾向として有名歌人の自然詠が多いということである。万葉集ほどの歌集をこの程度の歌にふれさせるだけでは親しむところまで行かずに終わってしまうと思う。万葉集の歌の多種多様な味わいは数多い作品にふれてみなければわからないことはいまでもない。自然詠、叙景歌が多いということも、昔からの型にはまった扱い方のように感じられる。大らかな自然の歌、清らかな自然の歌をとりあげることが無論よいことであるが、それと同時に、もっと思いきって人間臭い感じのする歌、例えば、相聞歌・挽歌・防人歌・東歌などをとりあげたらと思う。生徒たちの古典に対する興味は、昔の人々、とくに名も無い民衆の生活感情・思想などに向けられていることが多いのだから、そうした生徒の実態を考えるべきである。要するに、採られる歌の絶対数が少ないので、内容も限定されてしまうのである。とくに、憶良の歌や防人の歌は最も生徒達に愛され、そこから古典に親しみ、古典への認識を新たにす契機になるほどの魅力を持つのであるからもっと積極的に教材化すべきであろう。中学の教科書7種の中で、防人歌・東歌憶良の歌のいずれをも全然載せていないものが1種、防人歌を1首も載せていないものが4種、東歌を載せていないものが3種あるのを知って疑問を感じざるを得ない。

3. 高校における万葉集の学習指導

指導の対象は、本校の高校2年生3クラスで各クラス45名ずつである。教科は「古典乙1古文」である。古文・漢文それぞれ週2時間ずつの授業であるが、私一人で両方を担当しているため、教材の都合や進度の都合によって適宜、「古典乙1」4時間の範囲で時間の融通を利かせるようにしている。なお、古文の使用教科書は、「角川古典乙1古文2改訂版」である。万葉集の教材としては、20首の歌が載せられている。

(1) レポートの課題とその結果

2学期の最初から万葉集の授業に入る予定を立て、そのために、夏休み中に生徒達をして、万葉集の歌によくふれさせておきたいということと、また、生徒達が実際にどれだけ自主的に学習し鑑賞しうるものなのかを知りたいということで、生徒全員に次のような宿題を課した。「教科書およびプリントの作品を中心として、万葉集の歌をで

きるだけ多く鑑賞し、その中で、特に興味の深かった歌を3首以上とりあげて、その歌を選んだ理由、解釈、感想、批評などをレポートにまとめて提出せよ」という宿題で、そのために、約100首の歌を選んでプリントして配布した。その100首はとくに深く考えて選んだわけではないが、万葉集の第1期から第4期にかけて、それぞれの代表的歌人の歌を、時には長歌もふくめて数首ずつ選ぶこと、大和方面の研究旅行への興味をひき起こしそうなものもふくめること、防人歌・東歌等を数多く入れること、また、万葉仮名にもふれさせてみることを一応念頭においてた。

夏休みが終わって提出されたレポートの結果は次のとおりである。全員の生徒がレポートにとりあげた歌の延べ数は456首（一人平均3.5首）で、歌自体の数は126首であった。

(A) 生徒の選んだ歌の作者上位12。()内の数字はその作者の選ばれた歌の数、右の数字はとりあげた生徒の人数。)

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 防人歌 (18首) 87 | ⑦ 旅人 (11首) 29 |
| ② 憶良 (10首) 76 | ⑧ 東歌 (11首) 18 |
| ③ 人麿 (17首) 51 | ⑨ 有間皇子 (2首) 12 |
| ④ 家持 (9首) 38 | ⑩ 天武天皇 (2首) 12 |
| ⑤ 額田王 (5首) 36 | ⑪ 志貴皇子 (3首) 11 |
| ⑥ 赤人 (8首) 34 | ⑫ 黒人 (4首) 9 |

(B) 生徒達の選んだ万葉集の歌

レポートにとりあげられた歌、上位21首。

()内の数字はそれをとりあげた生徒の人数)

- | |
|---|
| ① 憶良らは今はまからむ子泣くらむそれぞれの母も吾を待つらむぞ 憶良 (22) |
| ② 瓜食めば子ども思ほゆ…… (長歌「子等を思ふ歌」) 憶良 (21) |
| ③ 銀も金も玉も何せむに勝れる宝子にしかめやも 憶良 (21) |
| ④ 父母が頭かきなで幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる 防人 (18) |
| ⑤ 茜さす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る 額田王 (15) |
| ⑥ 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎ出でな 額田王 (14) |
| ⑦ 韓衣裾にとりつき泣く子を置きぞ来ぬや母なしにして 防人 (13) |
| ⑧ わが妻はいたく恋ひらし飲む水に影さえ見えて世に忘れられず 防人 (13) |
| ⑨ 防人に行くは誰が夫と問ふ人を見るが羨しき物思ひもせず 防人 (11) |

- ⑨ 紫草のにはへる妹を憎くあらば人妻ゆゑに
われ恋ひめやも 天武天皇 (11)
- ⑩ 淡海の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのいに
にしへ思ほゆ 人 麿 (10)
- ⑪ ぬば玉の夜のふけゆけば久木生ふる清き河
原に千鳥しば鳴く 赤 人 (10)
- ⑫ 風雑り雨降る夜の……… (長歌「貧窮問答
歌」) 憶 良 (8)
- ⑬ わが宿のいさき群竹吹く風の音のかそけき
この夕かも 家 持 (8)
- ⑭ 春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つ
をとめ 家 持 (8)
- ⑮ 時々の花は咲けども何すれぞ母とふ花の咲
出来ずけむ 防 人 (8)
- ⑯ 石ばしる垂水の上の早蕨の萌え出づる春に
なりにけるかも 志貴皇子 (8)
- ⑰ 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見す
れば月傾ぶきぬ 人 麿 (8)
- ⑱ 春の野に霞たなびきうらがなしこの夕かげ
にうぐひす鳴くも 家 持 (7)
- ⑲ うらうらに照れる春日にひばりあがり情悲
しもひとりしおもへば 家 持 (7)

(C) レポートの内容について

4500首の数ある中から生徒達がはたしてどんな歌を選ぶか、また、その選び方の観点や、歌に対する感じ方はどうか、などいろいろな面から興味をもって生徒達全員のレポートをていねいに読んでみた。結果としては予想以上に良好であった。ほとんどの者が2学期の最初の時間に提出をすませたし、内容的にみても、自分で納得のゆく歌を選んで、発見のよろこびとも言えるような感想を述べている者がかなり多かった。勿論、型通りの解釈や文法の説明だけで片付けているような味けのないものも多かった。しかし、それでもその歌を選ぶ過程では自分なりの好みに応じてとりあげているところに意味があると思う。

とくに生徒が関心をもって扱った歌の傾向としては、素朴に実感の伝わってくるようなものが多い。人間の生活感情の素直に表わされたもの、雄大な、清らかな、または静かな自然を詠んだものなどである。中には歴史的背景との関連で、防人の制度や当時の農民の生活状況などを日本古代国家の機構の中に位置づけて追求し、防人や農民の苦しみ悲しみを根本から深く理解しようとするものがあつたし、憶良の「貧窮問答歌」「子等を思ふ歌」を鑑賞する中で、

憶良の他に類のないすばらしさを強調しながらも、人麿や防人の歌と比較してみると、感動の盛り上がり欠けるきらいのあることを残念がり、その原因として彼の置かれた社会的地位や身についた教養などの面を問題としているものもあつた。

個々の歌についてのレポートの内容を述べる紙面がないので、次にレポートの中から生徒たちの気持の一端がうかがわれると思う感想文の一部をぬきがきしておきたい。

○「万葉集なんてとっつきにくいと思っていたが、こうして自分でやってみて随分味わいのあるものだと思った。もっと自分で解釈し理解する力を養いたい。」

○「万葉集なんて全く興味ないよと思いながら読みはじめ、最初は苦痛であったが、だんだん面白くなってきた。日本史で習ったこの時代を全く別の面から再発見してゆく面白さであった。……(途中略)……古典に対する考え方を多少変えてくれた。今までも古典の意義なるものを口では言っているも理解はしていなかった。しかし万葉集を読んでいくうちにそれがわかってきたような気がする。それは、古典を学ぶことによって古代人の書いた作品を自分で理解できる力を身につけること、そしてその作品から何らかの現代に通ずる考え方、感じ方を得ることにあるのではないだろうか。」

(2) 授業の実際

2学期になって9月いっぱい、週4時間ずつ合計約15時間を万葉集の学習に当てた。

授業の進め方としては、教科書およびプリントの歌を1首ずつ生徒全員に割当てて、その歌についてできる限り深く調べてきて級全員の前で発表させるという形式をとった。解釈の他に、必ず自分の感想を述べさせ、それをもとにして他の生徒たちが感想や意見を述べ合うようにさせ、教師は説明の補足、訂正をしたり、生徒の調べ方発表の仕方を批評したりするようにした。毎時平均4人程度の割で進行させて行ったが、30分以上も説明を行なう者がある一方、参考書まるうつしの説明だけで5分もかからずにすませてしまう者もあつた。生徒の説明がよくわからなかったり、聞く生徒の態度がさわがしかったりすることもあって必ずしも効果的にはいかなかった。私の方も時間が気にかかるので、途中から急がせたり省略させたり口出ししたりすることが多くなっていった。し

かし、そのような種々の欠点はあるながらも、とにかく生徒全員がそれぞれ教壇に立って発表し、他の生徒の質問に答えられてはったり、答えられず立ち往生したりという調子の授業の中には、いきいきとしたふん囲気があったことは事実である。今後は、欠点を反省しながらよりよい方法を考えていきたい。

(3) 大和方面研究旅行

この旅行は従来、本校の高2を対象として、主に社会科、国語科の研究を主眼として行なわれてきたものである。44年度の実施にあたっては、1学期の5月頃から生徒を中心として、旅行の目的、期日、行程、研究活動等の実施計画の検討が始められたが、なかなかはかどらず2学期になってようやく軌道に乗り出した。生徒達は歴史・地理・文学・美術などのグループ別にテーマに従ってそれぞれ研究を分担して資料を集めたり調べたりした。文学グループがまとめた資料の中には万葉集の歌が30首あまり入っていた。私も一緒に歌を選んだが、その場合、飛鳥地方に深く根ざした歌を選ぶことにした。

舒明天皇の望国の歌、天智天皇の三山の歌、などをはじめとして人麿の「妻死り後泣血哀慟して作る歌」など有名な歌は授業で扱ったので、それら以外の歌で万葉のふるさとを感じさせられるような、いわば古代の歌ごころの生き生きとよみがえってくるようなものを選びあげた。次に記したのはそれらの歌の一部である。

- 御佩を劔の池の蓮葉に停れる水の行方なみわがする時に逢ふべしと逢ひたる君をな寝そと母聞こせしもわが情清閑の池の池の底われは忘れじただに逢ふまでに 作者未詳 (13-3289)
- さ松の隈松の隈川の瀬を早み君が手とらば言寄せむかも 作者未詳 (7-1109)
- 橘の寺の長屋にわが率寝し童女放髪あげつらむか 作者未詳 (16-3822)
- 明日香川瀬々に玉藻は生ひたれどしがらみあれば靡きあはなくて 作者未詳 (7-1380)
- 明日香川瀬々の玉藻のうち靡き情は妹に寄りにけるかも 作者未詳 (13-3267)
- 三諸の神名備山に五百枝さし繁に生ひたるつがの木のいやつぎつぎに玉かづら絶ゆることなくありつつも止まらず通はむ明日香の旧き都は山高み河とほしろし春の日は山し見が欲し秋の夜は河し清けし朝雲に鶴は乱れ夕霧に河蝦は騒ぐ見るとに哭のみし泣かゆ古思へば 赤人 (3-324)
- 明日香川淀さらず立つ霧の思ひ過ぐべき恋にあらなくて 赤人 (3-325)

○采女の袖吹きかへす明日香風都を遠みいたづらに吹く 志貴皇子 (1-51)

○明日香川行き廻る丘の秋萩は今日降る雨に散りか過ぎなむ 丹比国人 (8-1557)

○ふさ手折り多武の山霧しげみかも細川の瀬に波の騒げる 人麿歌集 (9-1704)

旅行は9月29日から10月2日にかけて3泊4日の日程で各地を見て回ったが、第2日目は飛鳥の地で甘樫丘へ登った後飛鳥寺へ出て、その後は3時間ほど自由に歩かせた。生徒達にとって旅行全体を通じて万葉集との結びつきを感じたのは、実際のところ、大和三山の姿、甘樫丘からの眺め、飛鳥川等を歌のイメージと比較してみた程度であったようであるがそれについては後述したい。旅行の反省としては、事前研究を十分にさせておくべきだったということである。とくに観光旅行的な研究ではなく、大和を中心とする古代文化の根底にある古代社会に対する認識を深めるような研究が最も必要であると痛感させられた。なお、そのことと関連して第3日に平城宮跡の発掘現場を見学したことは非常に有意義であった。

(4) 愛知県関係の万葉集の紹介

万葉集の歌がいかに広く各地域と結びついていて自分達とも身近なものであるかということを感じさせ、そんなことから古典への親しみを感じさせたいと思って愛知県に関係のあるとされる次のような歌を拾い一応生徒に紹介してみた。時間もなかったし、私自身不勉強で知識に乏しいのでプリントで簡単に紹介したに過ぎない。

- 打麻を麻績の王海人なれや伊良虞の島の玉藻刈ります 作者未詳 (1-23)
- うつせみの命を惜しみ浪にぬれ伊良虞の島の玉藻刈り食む 麻績王 (1-24)
- 潮騒に伊良虞の島辺漕ぐ船に妹乗るらむか荒き島廻を 人麿 (1-42)
- △引馬野ににはふ榛原入り乱れ衣にほはせ旅のしるしに 長奥麿 (1-57)
- △何処にか船泊てすらむ安礼の崎漕ぎ廻み行きし棚無し小船 黒人 (1-58)
- 桜田へ鶴鳴きわたる年魚市濁潮干にけらし鶴鳴きわたる 黒人 (3-271)
- 妹もわれも一つなれども三河なる二見の道ゆ別れかねつる 黒人 (3-276)
- 年魚市濁潮干にけらし知多の浦に朝漕ぐ舟も沖に寄る見ゆ 作者未詳 (7-1163)
- △夢のみに継ぎて見えつつ小竹島の磯越す波のしくしく思ほゆ 作者未詳 (7-1236)
- △みつかは (三川) のふちせもおちず小網刺すに

衣手濡れぬ干す児は無しに

春日老? (9—1717)

△あちの住む渚沙の荒磯松我を待つ児らはただ一人のみ

作者未詳 (11—2751)

なお、上記の歌のうちの△印のものは諸説あって愛知県のものかどうかわからないらしいが、そういうものもふくめて一応とりあげた。

(5) 万葉集学習に対する生徒の感想・意見

次は、高2の万葉集の授業を終えてから一か月半ほど過ぎてから (11月下旬) 調査した結果である。調査対象の生徒数は90名。

(A) 「万葉集の学習に興味を感じたか」——

- ア. 興味を感じた 59名 (65%)
- イ. 興味を感じない 12名 (14%)
- ウ. どちらともいえない 19名 (21%)

アの主な理由 (番号は答えた生徒の多い順)

- ① 「1000年以上の昔の人々、しかもさまざまの人々の生活や気持がわかる」「私の気持ちにぴったりのものがある」等。
- ② 「大和研究旅行のために歌を調べたり、現地をみまわったりしたから」
- ③ 「数多くの歌をやり、自分でも自然多く調べて作品の特徴などがわかったから」

イまたはウの理由

- ① 「短歌のように短かくて型にはまったものはよくわからないから」「内容がつかみにくい」等。
- ② 「歌の量が多すぎて、調べるのにいそがしく、ゆっくり味わえなかった。」

(B) 「万葉集は他の古典に比べてみてむずかしいと感じたか、やさしいと感じたか」——

- ア. むずかしい 45名 (50%)
- イ. やさしい 8名 (9%)
- ウ. わからない 37名 (41%)

アの主な理由

- ① 「和歌という限られた字数と形式の中で表現されている作者の気持の微妙な動きをつかみとっていかなければならないから」
- ② 「古代の文章で、独特のことばや文法が使われているから。とくに枕詞、序詞など」
- ③ 「古い時代のもものだから内容の状況がわかりにくい。歴史的社会的な背景を考えなくてはならないから」

イの主な理由

- ① 「和歌という形式が簡潔で意味がとりやすいから」「和歌といっても技巧が少ないし、文法もさほど複雑ではないから」
- ② 「内容に親近感をおぼえるから」「歯切れ

のよい調子でおぼえやすいから」「具体的で素直な内容だから」

(C) 「万葉集の中で、どんな作品が好きか」——

- ア. 最も好きな作品の種類・傾向などについて
 - ① 「自然を歌ったもの」「雄大な景色を詠んだもの」「季節感のあらわれたもの」等 29名
 - ② 防人の歌、東歌など民衆の生活から生まれたもの」等24名
 - ③ 「人生、社会、思想等にふれたもの」等 12名
 - ④ 「人間の真実の心情のあふれたもの」等 12名
 - ⑤ 「静かでしみじみとした感じのもの」等 6名

⑥ その他

イ. 最も好きな歌人一人について

- ① 憶良 (32名) ② 人麿 (14名)
- ③ 赤人 (12名) ④ 額田王 (8名)
- ⑤ 家持 (7名) 以下略

ウ. 最も好きな歌一首について

- ① 風まじり雨降る夜の…………… (11名)
- ② 父母が頭かきなで…………… (6名)
- ③ 東の野にかぎろひの…………… (6名)
- ④ 憶良らは今はまからむ…………… (4名)
- ⑤ その他

ここには約40首の歌があげられて数字も細かく分かれた。一首だけあげよというのが無理だという理由で答えられない者もある。

(D) 「授業に対する感想・意見等」——

ア. 生徒の発表による授業の形態について——

- ① 「生徒がそれぞれ調べて発表するというやり方は興味もてた」
- ② 「生徒の発表という方法はよいが、発表の仕方がわるい。本人はわかっているが、聞いていない者にはわからないことが多い」「自分の分担の歌はよくやるが、他の歌は忘れてしまう」「参考書の解説をそのまま発表しているだけの人が多かった」等

イ. 教材の選び方について——

- ① 「教科書以外の教材の選び方は、歌の数の多かったこと、内容の種類が豊富だったこと等がよかったと思う」
- ② 「歌の数が多すぎる。もっと厳選して一つ一つをていねいに味わいたい」
- ③ 「庶民の歌をもっと多く入れよ」

ウ. その他について——

- ① 「時間をかけ過ぎた」

- ② 「もっと時間をかけてゆっくりやってもよかったと思う」「作者の意図・主張・時代背景等をくわしくやりたかった」
- ③ 「夏休みのレポートの宿題はよい勉強になった」
- ④ 「鑑賞と研究をもっときちんとやるべきだった」
- (E) 「万葉集の学習・鑑賞という観点からみて大和方面研究旅行に対してどのように感じたか」
- ① 「万葉集の故郷をみることによって古代への親近感をもつことができた」「飛鳥地方のふんいきを体全体で味わうことができてよい勉強になった」「甘樫丘からの眺めがよかった。大和三山、飛鳥川、大和平野等の眺めが印象に残った」「平城宮跡が最も意義深かった」等。
- ② 「歌のイメージと現実とがあまりにかけ離れていてピンとこない」「大和の自然をみても万葉集の歌とどうも結びつかない」「飛鳥川をみてがっかりした」「古代文化の故郷といっても実感がわからない」「俗化している」等。
- ③ もっと事前研究をしていくべきだった。研究していったところは興味深くみることができた」「全体として忙がしくてゆっくり味わえなかった」「多人数でおしかけても落ちついた鑑賞は無理だ」等。

以上の生徒の感想・意見によって、生徒が何に感動し何を求めているかがわかるように思う。生徒の実態に即して、いきいきした学習を展開させたいと思い、教材選択、授業形態、旅行との関連等を一応工夫して試みた結果、ある程度、目標の達せられた面もあるが、細かい配慮、計画が不足していたことを反省させられる。

4. 中学における万葉集の学習指導

指導の対象は本校中学3年生2クラス。使用教科書は「筑摩」の「国語三」である。3年用の古典教材として、「芭蕉の句」「漢詩」などと並んで「万葉集の歌」がある。12月から1月にかけて、万葉集を7～8時間かけて扱った。なお、万葉集の指導に先立って、中学3年生が、万葉集に対してどの程度の予備知識をもっているのかを知っておきたいと思い次のようなアンケートによる調査を行なった。

(1) 万葉集に関する知識の予備調査

調査の対象——本校中学3年生 84名

調査日——44.11.29

(A) 「万葉集のできた時代は大体いつ頃か」——

- ① 奈良時代または紀元8世紀と答えた者 57名 (68%)
- ② 平安時代と答えた者 20名 (24%)
- ③ わからないと答えた者 7名 (8%)
- (B) 「万葉集の歌の数は大体どれくらいか」——
- ① わからないと答えた者 33名 (39%)
- ② 4000首から5000首の数で答えた者 10名 (12%)
- ③ その他(誤答) 51名 (49%)

(C) 「万葉集な代表的の歌人」——

これは人麿、憶良、家持、赤人等とほとんどの者が正しく答えていた。しかし、中には「知らない」と答えた者の他、藤原定家、歌麿などと答えた者もいた。

(D) 「万葉集の特色はなにか」——

- ① 「万葉仮名」と答えた者 33名
- ② 「内容が多種多様」「いろいろの階級の人々よって歌われた」と答えた者 23名
- ③ その他「枕詞が多い」「最古の歌集」「男性的」等と答えた者 18名
- ④ 「知らない」と答えた者 18名
- ⑤ 誤答 11名

(E) 「万葉集の歌を読んだり聞いたりしたことがあるか」——

ア. ある 53名 (63%)

イ. ない 31名 (37%)

以上の調査でわかることは、中3の段階では万葉集について漠然と知ってはいるが、具体的には知っていない者が多いということである。万葉集を習うのが中3になってはじめてなのだから仕方がないのであろう。

(2) 授業の実際

そこで指導に際しては、まず、万葉集の特色を話し、万葉集を学ぶことの意義について説明した。そして歌の鑑賞は、教科書に載っている7種を順序に扱っていく過程で、約20首の歌を補充した。授業形態は後半歌になれてきてからはグループ学習の形で行ない生徒達は読み方や意義などがわからなかったり、まちがったりしながらも、グループで話しあう中にわかってきて、喜んだり驚いたりするという調子で活気のあふれる授業が展開された。

(3) 万葉集学習に対する生徒の感想・意見

教科書の万葉集教材を一応終えた段階で次のような簡単なアンケートによる調査を行なった。

(A) 「教科書に載っていた7首の歌の中で最も気に入ったものはどれか」——

- ① ときどきの花は咲けども何すれぞ母とふ花の咲き出来ずけむ 防人の歌 (20名)

- ② 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見す
れば月かたぶきぬ 人 磨 (18名)
- ③ わたつみの豊旗雲に入日さしこよひの月夜
まさやかにこそ 天智天皇 (14名)
- ④ 田児の浦ゆうち出でて見れば真白にぞふじ
の高嶺に雪はふりける 赤 人 (10名)
- ⑤ わが宿のいさき群竹吹く風の音のかそけき
この夕かも 家 持 (8名)

以下略

それぞれの歌を選んだ理由の代表的なものだけを示すと次の通りである。①「防人の悲しい気持、故郷の母を思う気持が伝わってくる」「母とふ花という着想が素直で美しい」②「雄大な感じ、広々したすがすがしい感じがする」「何回も読んでいるうちに雄大な男らしい感じがしてきて非常に気に入った」③「口調がよい」「海上のすみきった空と夕日を受けた雲との対照、そのすばらしい風景が目に見えかかってくる」「作者の心の広さが感じられる。心の中がきれいになるようだ」④「おぼえやすかった」「雄大な富士山が目の前に現われるのを想像すると何ともいえない感じがする」「雄大な感じに清潔な感じが加わっている」⑤「歌の調子が気に入った。歌の情景がにじみ出ている」「もの悲しく静かで心の中にふかくとけこんでくるような趣がある」

(B) 「万葉集の歌は好きか嫌いかな」――

- ア. 好き 30名 (36%)
イ. 嫌い 2名 (2%)
ウ. どちらともいえない 52名 (62%)

アの理由

- 「いろいろの階級の人の歌があり、内容的にも雄大なものから悲しいものまであるから」
○「雄大な自然、親しい人へのやさしい感情などが素朴にうたわれていて昔の人たちの気持がわかるからよい」
○「自然に密着しているのがよい。現代人のせせこましい気持を大きくしてくれるようだ」
○「防人の歌はわかりやすく、また心をうたれる」

イの理由

- 「なんのために万葉集をやるのか、目的がわからない」

ウの理由

- 「内容には興味があるが、ことばがわからないのでなじめない」
○「はじめはさっぱり意味がわからなかったがだんだんと素朴な味わいが感じられるようになった」

(C) 「万葉集の授業に対して希望したいこと」――

○万葉集独特の表現法、単語、文法なども教えてほしい」「歌の読み方、調子のつけ方などを教えてほしい」

○「もっと他の歌を知りたい」「防人の歌をたくさん知りたい」

以上のような生徒の感想をみると、中学生にとっても万葉集は親しみやすい古典教材として自信をもって指導してよい気がする。その場合口調もよく意味も素朴でわかりやすい歌を選ぶことがまず必要であり、そして、指導の過程ではくり返し声を出して読ませ、できるだけ暗唱させるのがよいと思われる。

4. あとがき 一まとめと反省――

高校と中学とで万葉集の授業を行なってみて、いろいろと新たに教えられることが多かった。とくに中学での古典教育のあり方について関心を持たざるを得なくなった。高校生の万葉集についてのレポートを読む中で、歌をとりあげた理由として、「中学の時おぼえそれ以来好きになったので」というものがかかなり目についた。感受性がみずみずしく知的好奇心も旺盛な中学生の時期に、やさしくしかも興味深く生徒の心に訴えるような古典の作品を適切に教えることの重要性を強く感じた。また、高校生の中に、古典学習の目的がわからないという者がかなりあることも重大な事実であるが、そのことに対しても中学から高校にかけての指導の中で根本的な対策を考える必要があると思われる。現実の問題としては、内容に興味を持たせ考えさせる古典教育本来の目標と、読解力を養うという現実的な目標とを切り離さないようにして、興味を感じさせながら読解力を身につけさせ、正しい読解の中で興味を深めさせる指導がどうしたら可能であるかということである。第一に考えられることは、やはり、生徒の胸をうつような教材を用意することである。私は万葉集の指導を通してそのことをとくに強く感じた。

古典教材の選択、たとえば具体的に万葉集教材の選択につけて思い出されるのは、私が20数年前の戦争中に小学校で憶えた、いや憶えさせられた万葉集などの歌である。「愛国百人一首」というものがあつたと記憶している。「海行かば」の歌とともに「御民われ生けるしるしあり……」「けふよりは顧みなくて大君の……」「ちよろづの軍なりとも言挙げせず……」「をのこやも空しかるべき……」等の歌が今でもふと口をついて出てくるのである。思えば、天皇制軍国主義国家への愛国心教育のために古典が利用された典型的な例であると言えよう。しかし、ここには単純に片

付けられない問題が含まれていると思う。二つの面から考えてみる。まず第一に、万葉集のようにすぐれた民族的古典が正しい民族教育のためでなく、逆の方向に利用されうることを、たとえば現に生徒達によって最も愛されている防人や憶良の、その一部の歌がかつて軍国主義教育のための教材ともなったという事実である。第二にその誤った方向で教えられたものでありながらも少年時代に刻みこまれた歌は後々まで、おそらく生涯記憶に残るであろうということ、すなわち、古典教育の可能性や効果の問題である。こうしてみると古典教育が行なわれるに際しては正しい古典教育の理念が確立されていなくてはならないことをあらためて思う。古典教材の選択に際しては、古典はすべてそのまま教育的価値をもつものとするのではなく、正しい教育理念に基づいて批判的態度をもって検討すべきであ

ろう。そして真に民族の伝統・文化遺産を正しく受けつぎ発展させる方向に立って、今後の古典教育は中学から高校の段階においてもっと積極的に進められてよいのではないかと思う。万葉集の中の親しみやすい歌などは中学1・2年は勿論小学校の高学年からでも扱おうと思うのである。高校においては、古典の背景となる歴史的社会的状況を把握しておくことが私達国語教師にとってとくに必要なことである。日本史の研究成果を踏まえながら今後の古典教育の充実化を考えてゆくべきであると思う。

以上は私のきわめて未熟な古典指導の体験を通して得た考え方である。各方面からきびしく批判していただきたい。